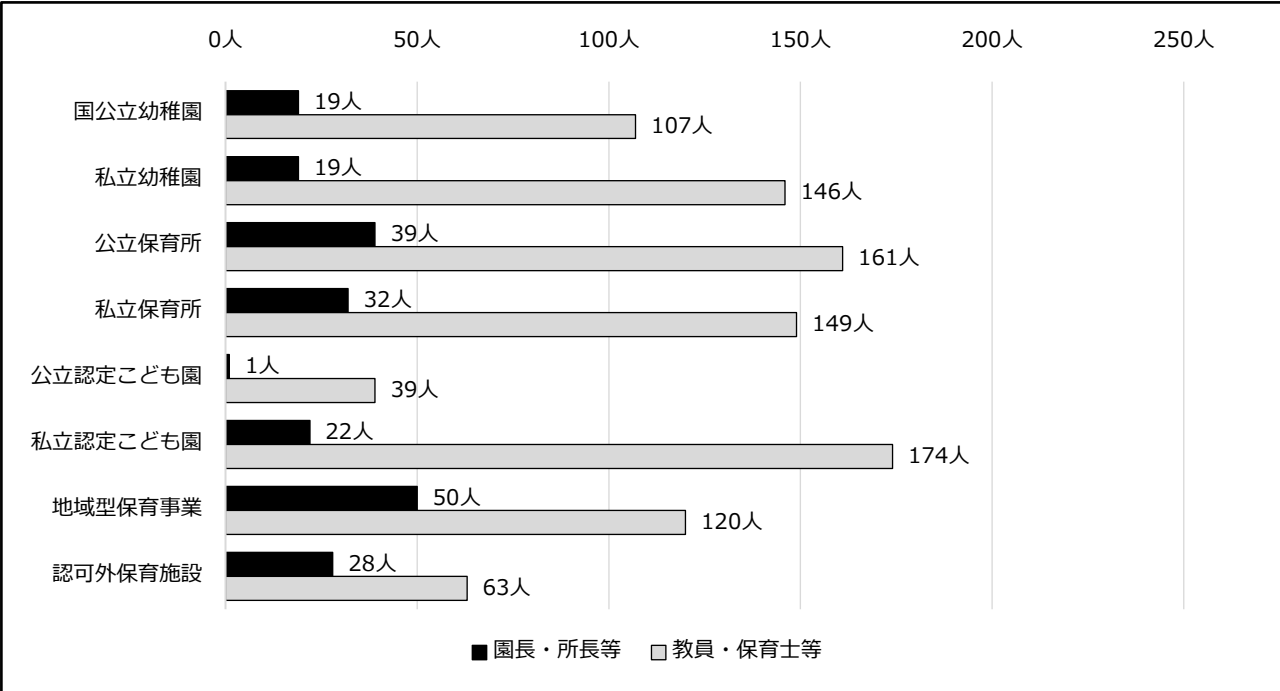


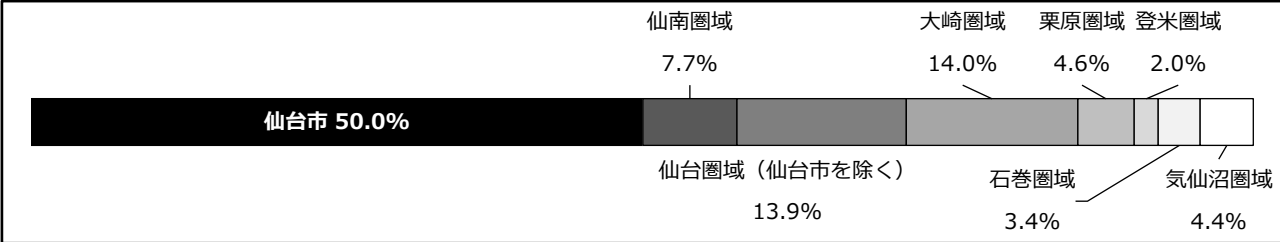
幼児教育に関わる実態調査結果（対象者：園長・所長， 教員・保育士等）

回答数

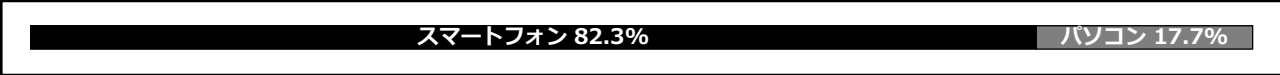
対象施設			回答数（人）			
施設区分	施設数		園長・所長等	回答率	教員・保育士等	合計
幼稚園	国公立	54	19	35.2%	107	126
	私立	131	19	14.5%	146	165
	小計	185	38	20.5%	253	291
保育所	公立	148	39	26.4%	161	200
	私立	237	32	13.5%	149	181
	小計	385	71	18.4%	310	381
認定こども園	公立	10	1	10.0%	39	40
	私立	142	22	15.5%	174	196
	小計	152	23	15.1%	213	236
地域型保育事業		294	50	17.0%	120	170
認可外保育施設		271	28	10.3%	63	91
合計		1,287	210	16.3%	959	1,169



施設所在地

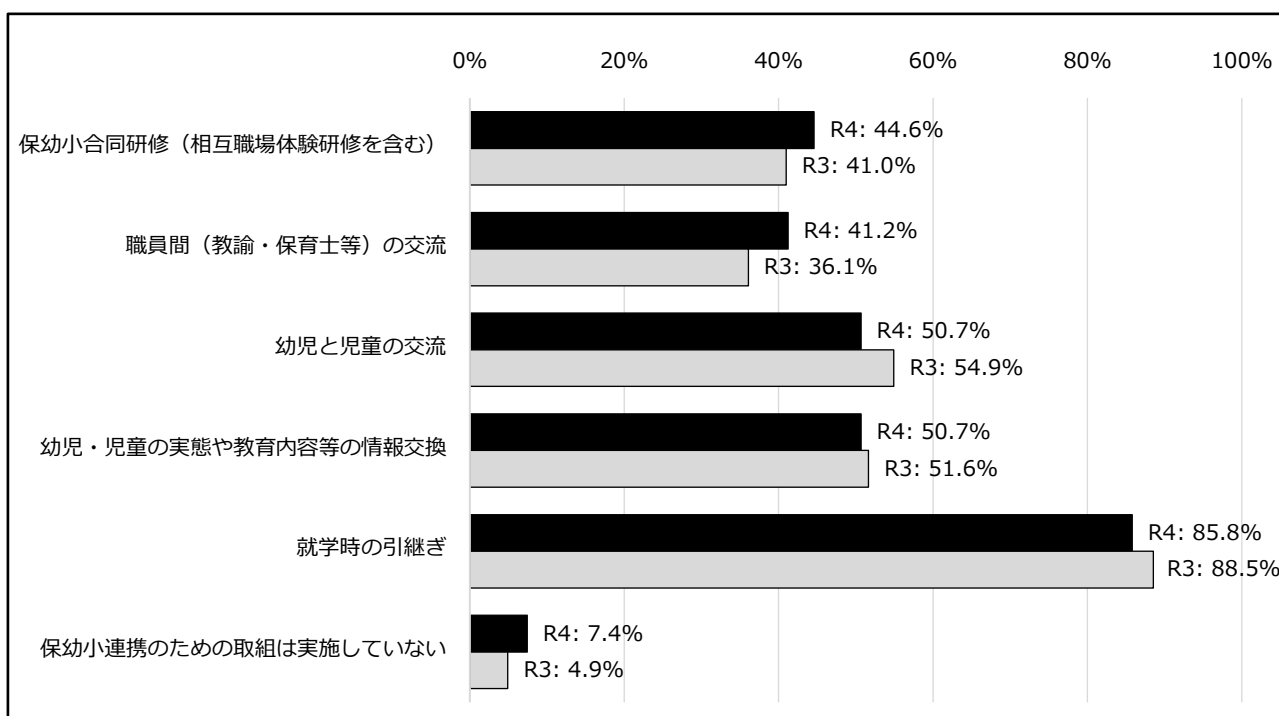


回答方法



1 保・幼・小連携について（園長・所長のみ回答）

1-1 保幼小連携・接続のための取組としてどのようなことを実施していますか。 （該当するもの全て選択）



- 「0～2歳児のみを対象とする施設のため小学校と直接連携した取組はない」の選択肢を設置
→ 全回答施設「210施設」中「62施設」がこの選択肢に該当すると回答
- 幼児教育と小学校教育の連携・接続のための取組に関する質問のため上記施設を除外した「148施設」の状況を集計
→ 「回答者のより正確な実態」を集計

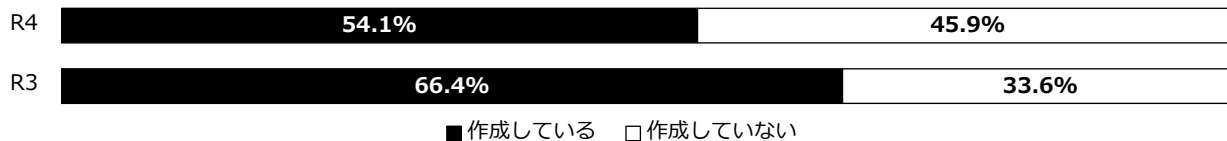
（今年度の保幼小連携・接続のための取組状況の施設類型別内訳）

施設類型 連携内容	国公立 幼稚園	私立 幼稚園	公立 保育所	私立 保育所	公立 認定 こども園	私立 認定 こども園	地域型 保育事業	認可外 保育施設
カリキュラム作成	72.2%	36.8%	67.6%	55.2%	100.0%	61.9%	50.0%	6.7%
保幼小合同研修	72.2%	31.6%	54.1%	37.9%	100.0%	42.9%	37.5%	20.0%
職員間の交流	77.8%	21.1%	48.6%	24.1%	100.0%	42.9%	50.0%	26.7%
幼児と児童の交流	94.4%	26.3%	59.5%	37.9%	0.0%	61.9%	37.5%	26.7%
情報交換	88.9%	31.6%	51.4%	41.4%	100.0%	61.9%	50.0%	26.7%
就学時の引継ぎ	100.0%	94.7%	97.3%	96.6%	100.0%	90.5%	50.0%	20.0%
取組未実施	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	60.0%

【概要・考察等】

- 保幼小連携・接続のための取組を「幼児と児童の交流」と回答した割合は、昨年度より4.2ポイント減少したことから、新型コロナウイルス感染症の影響による交流機会の減少がうかがえる。
- 「保幼小合同研修」「職員間の交流」と回答した割合が増加したことから、幼児教育と小学校教育の相互理解や連携接続を図ろうとする施設の意識が少しずつ高まってきていると考えられる。
- 「保幼小連携のための取組は実施していない」と回答した割合が、昨年度より2.5ポイント増加したことから、保幼小連携・接続の必要性・重要性について、更なる啓発が必要である。

1-2-1 保幼小接続のためのアプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムを作成していますか。

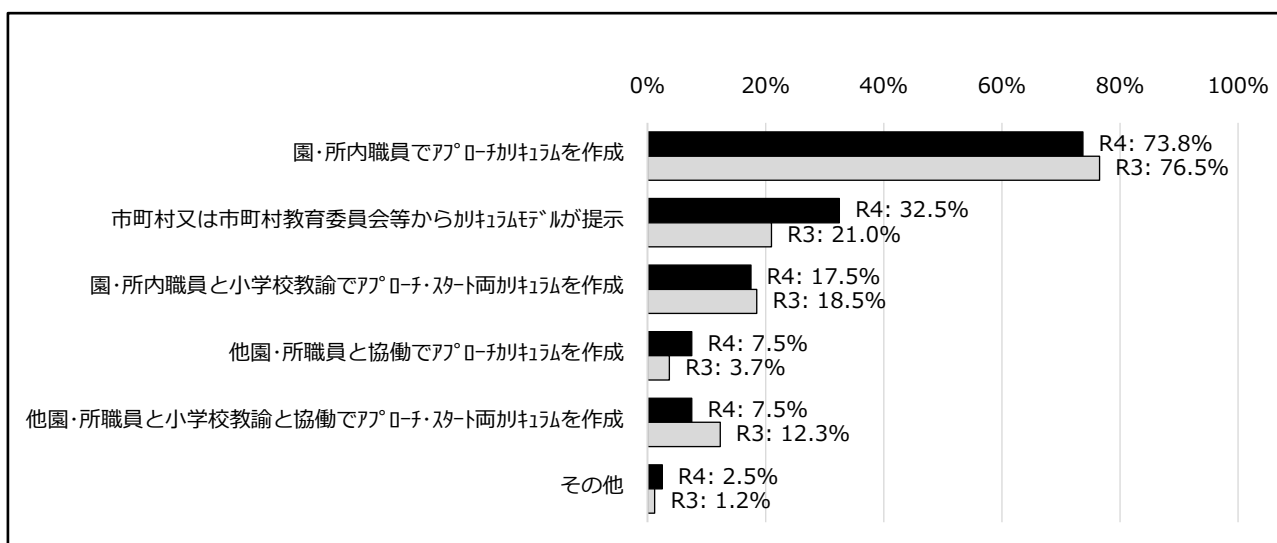


- 設問「1-2-4」において「0~2歳児のみを対象とする施設のため作成していない」の選択肢を設置
→ 全回答施設「210施設」中「62施設」がこの選択肢に該当すると回答
- アプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムの作成が求められる施設に関する質問のため上記施設を除外した「148施設」の状況を集計
→ 「回答者のより正確な実態」を集計

【概要・考察等】

- 保幼小接続のためのアプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムを「作成している」と回答した割合は、昨年度より12.3ポイント減少した。
- 今年度の実態調査では、全回答数が増加していることから、カリキュラム作成の実態が昨年度よりも正確に把握できたと考えられる。
- 引き続き市町村の取組を収集し、「宮城県版保幼小接続期カリキュラムの実践に向けて〈資料編〉」に好事例を掲載するとともに、保幼小合同の研修などを通して、カリキュラムの必要性・重要性を啓発していく必要がある。

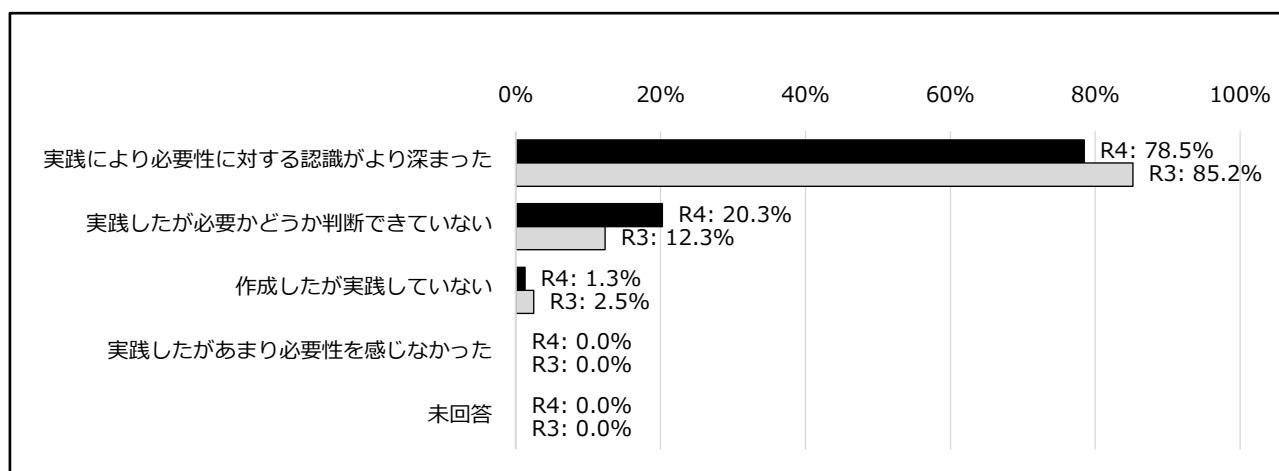
1-2-2 「1-2-1」で「作成している」を選択した方は、カリキュラムをどのように作成していますか。（該当するもの全て選択）



【概要・考察等】

- 「市町村又は市町村教育委員会等からカリキュラムモデルが提示」と回答した割合は、昨年度より11.5ポイント増加したことから、保幼小の連携・接続の取組を推進している市町村又は教育委員会が増えてきていると考えられる。
- 「幼児教育施設と小学校の教職員でアプローチ・スタート両カリキュラムを作成している」と回答している割合は、依然少ない状況であることから、引き続き保幼小の相互理解のもと、合同で作成していくことの重要性を啓発していく必要がある。

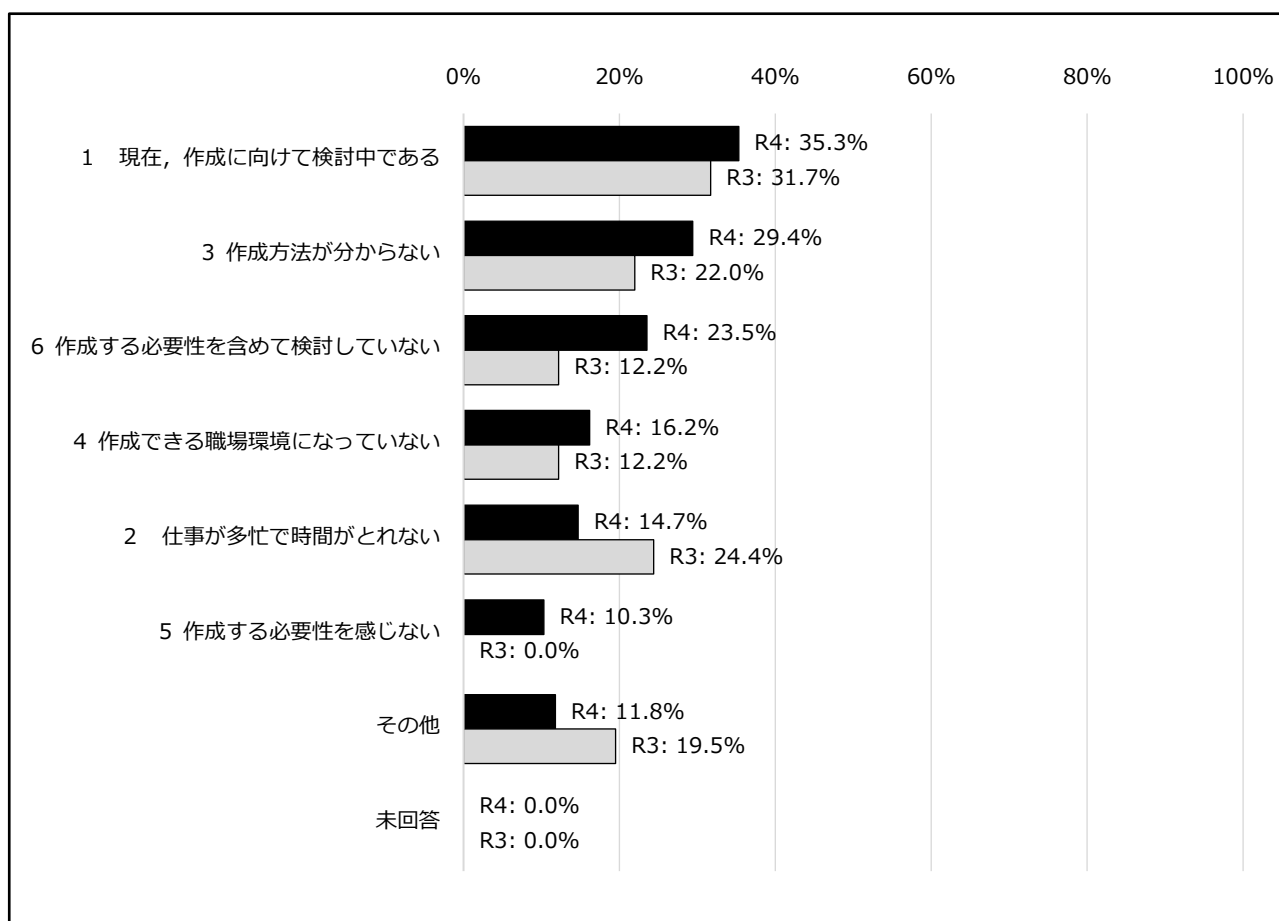
1-2-3 「1-2-1」で「作成している」を選択した方は、作成したカリキュラムの実践を通した園・所内全体での成果をお答えください。



【概要・考察等】

- 「実践により必要性に対する認識がより深まった」と回答した割合は、昨年度より6.7ポイント減少した。
- 「実践したが必要かどうか判断できていない」と回答した割合が8ポイント増加している。これは、幼児や児童同士の交流が減少するなど、新型コロナウイルス感染症の影響から、子供たちの学びの姿を実際に見ることが難しく、保幼小の連携や接続の取組を実感として感じる事ができる機会が減少していることが考えられる。

**1-2-4 「1-2-1」で「作成していない」を選択した方は、その理由をお答えください。
(該当するもの全て選択)**



- 「0～2歳児のみを対象とする施設のため作成していない」の選択肢を設置
→ 質問該当施設「130施設」中「62施設」がこの選択肢に該当すると回答
- アプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムの作成が求められる施設に関する質問のため上記施設を除外した「68施設」の状況を集計
→ 「回答者のより正確な実態」を集計

【その他の主な内容】

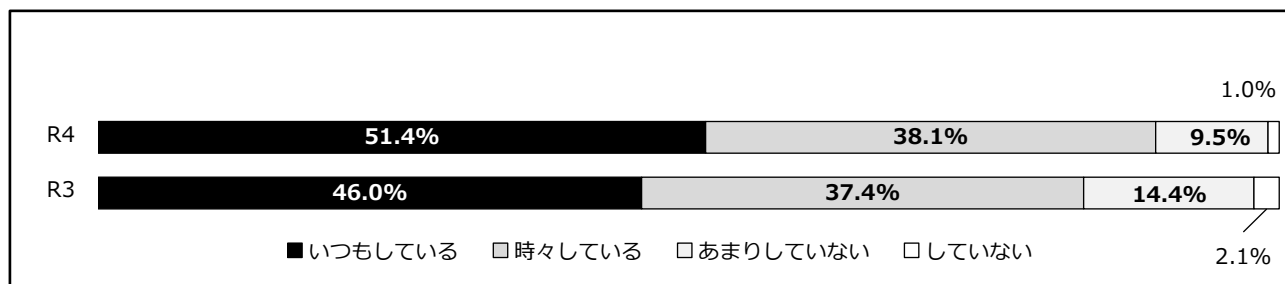
アプローチカリキュラム又はスタートカリキュラムがどういうものか分からない。

【概要・考察等】

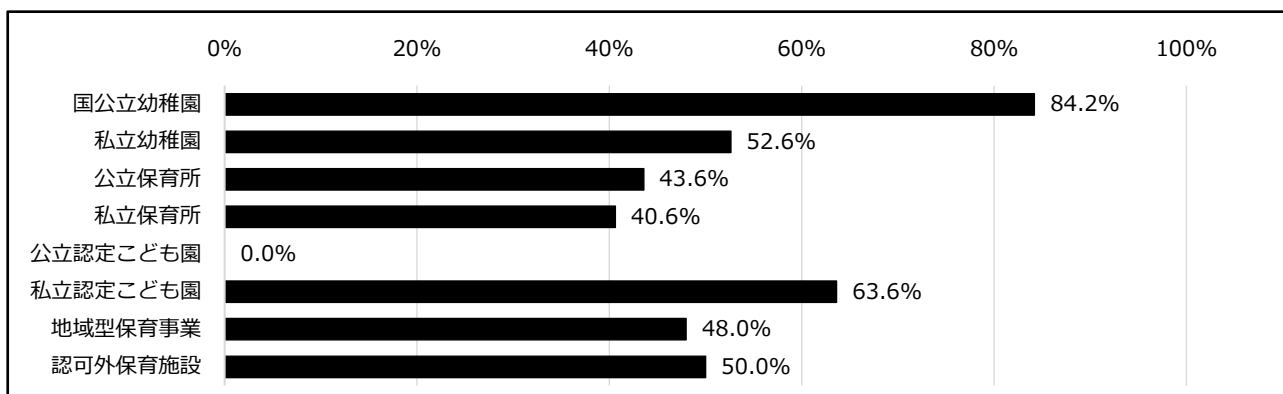
- 「現在, 作成に向けて検討中である」と回答した割合は, 3.6ポイント増加した。
- 「作成方法が分からない」と回答した割合は, 7.4ポイント増加した。
- 「作成する必要性を含めて検討していない」と回答した割合は, 11.3ポイント増加した。
- 作成する必要性を含めて検討していない「作成する必要性を感じない」がいずれも10ポイント以上増加していることや, 自由記述の中に「アプローチ・スタートカリキュラムがどういうものか分からない。」との回答があったことから, 接続期カリキュラムの重要性について, 更なる啓発が必要である。

2 基本的な生活習慣について（園長・所長のみ回答）

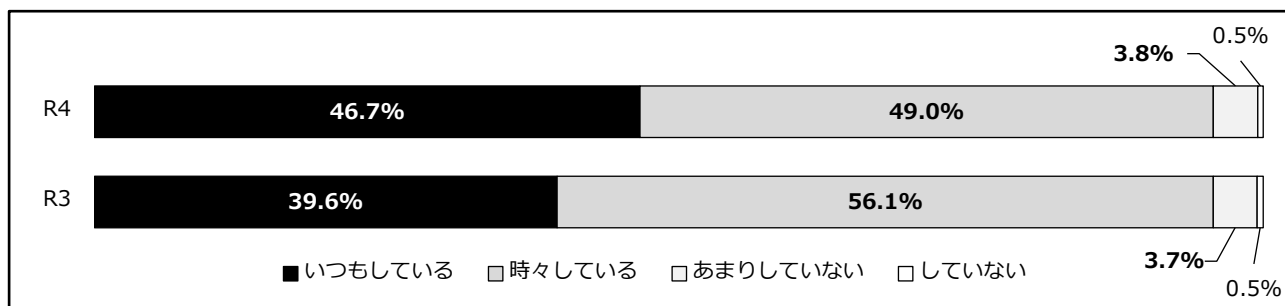
2-1 幼稚園や保育所等の活動において「はやね・はやおき・あさごはん」運動などの基本的な生活習慣の確立のための取組をしていますか。



（今年度「いつもしている」と回答した施設類型別内訳）



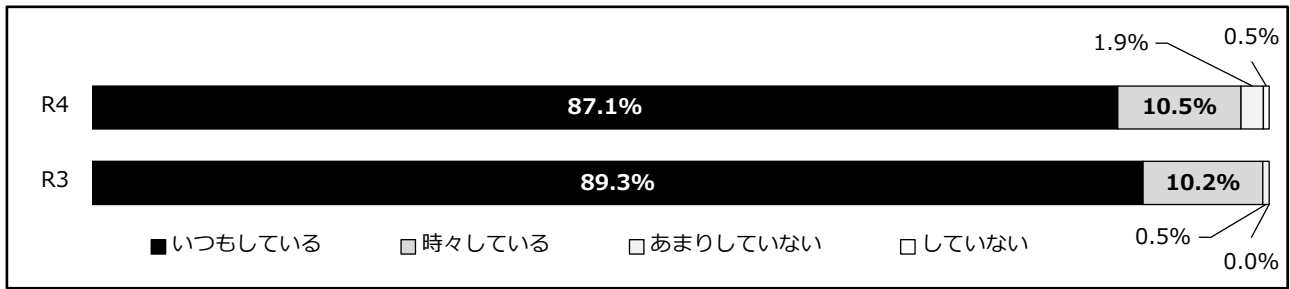
2-2 基本的な生活習慣の確立のために、家庭への啓発をしていますか。



【概要・考察等】

- 「はやね・はやおき・あさごはん」運動などの基本的な生活習慣の確立のための取組を「いつもしている」と回答した割合は、昨年度より5.4ポイント増加し、取組を「いつもしている」「時々している」と回答した割合は、昨年度より6.1ポイント増加した。
- 家庭への啓発を「いつもしている」「時々している」と回答した割合は、概ね昨年度と変わらない。
- 基本的な生活習慣の確立の重要性について理解を促進していくために、更に「学ぶ土台づくり」の取組の普及啓発を図っていく必要がある。

2-3 外遊びや運動など体を動かす習慣の確立のための取組をしていますか。

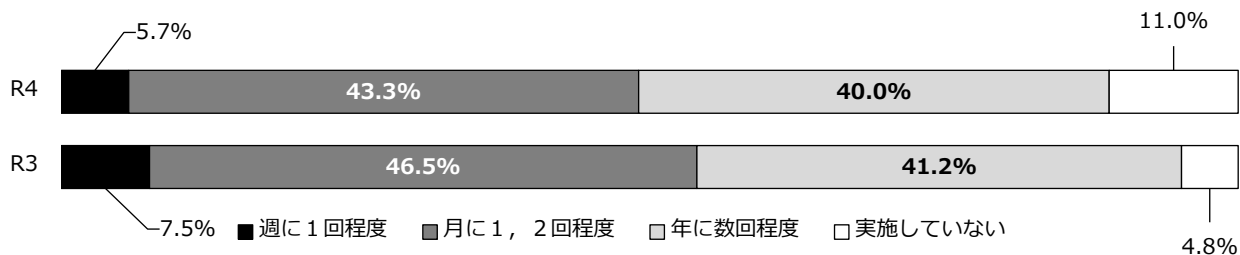


【概要・考察等】

- 体を動かす習慣の確立のための取組を「いつもしている」と回答した割合は、昨年度より2.2ポイント減少した。
- 「いつもしている」「時々している」と回答した割合は、97.6%であることから、体を動かす習慣が着実に広がっていることがうかがえる。

3 園内研修について（園長・所長のみ回答）

園内研修の頻度についてお答えください。

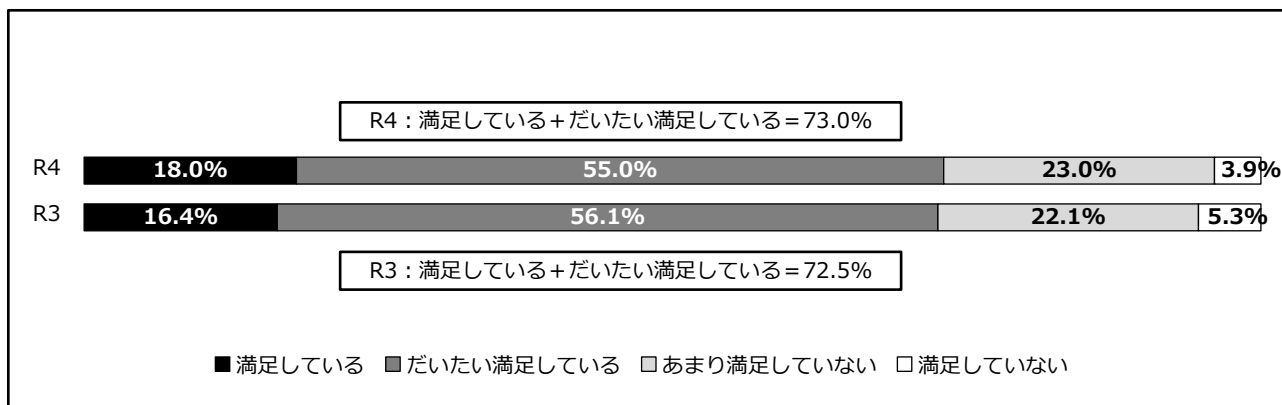


【概要・考察等】

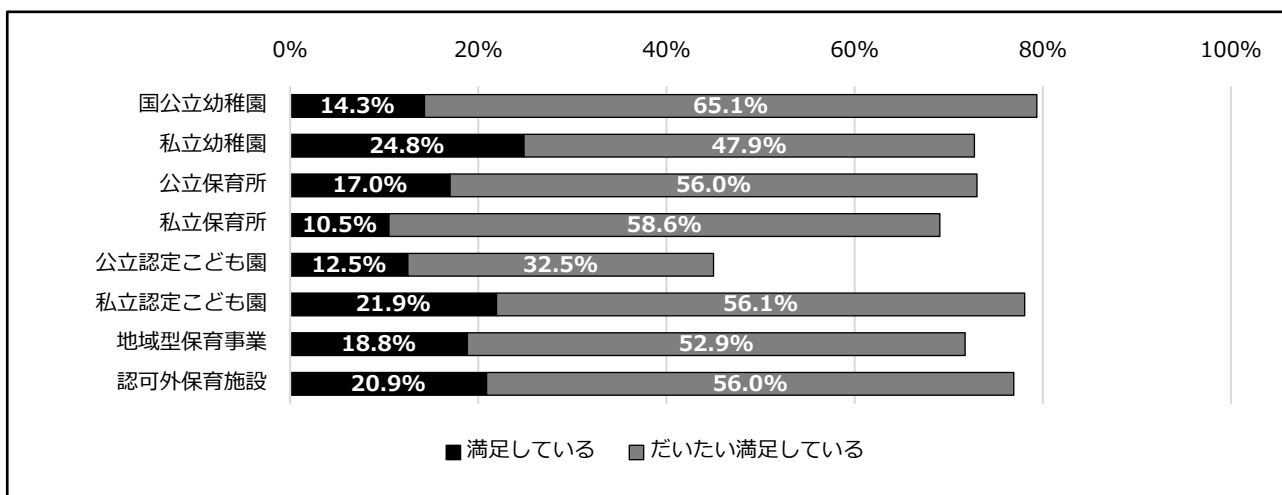
- 園内研修の頻度が「週に1回程度」と回答した割合は、昨年度より1.8ポイント減少し、「月に1, 2回程度」と回答した割合は、3.2ポイント減少した。
- 「実施していない」と回答した割合も11.1ポイントと1割程度いることから、施設によっては、継続的・定期的な園内研修の取組は難しい状況であると考えられる。
- 引き続き、幼児教育アドバイザーの派遣やICTを活用した研修教材の提供など、園内研修を活性化させるための支援を行っていく必要がある。

4 研修について（全員回答）

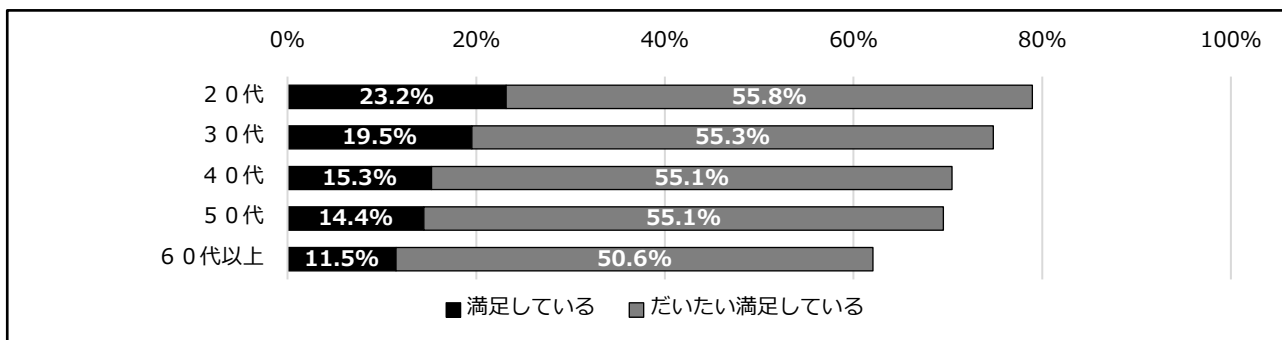
4-1-1 現在の御自身の研修状況についてお答えください。



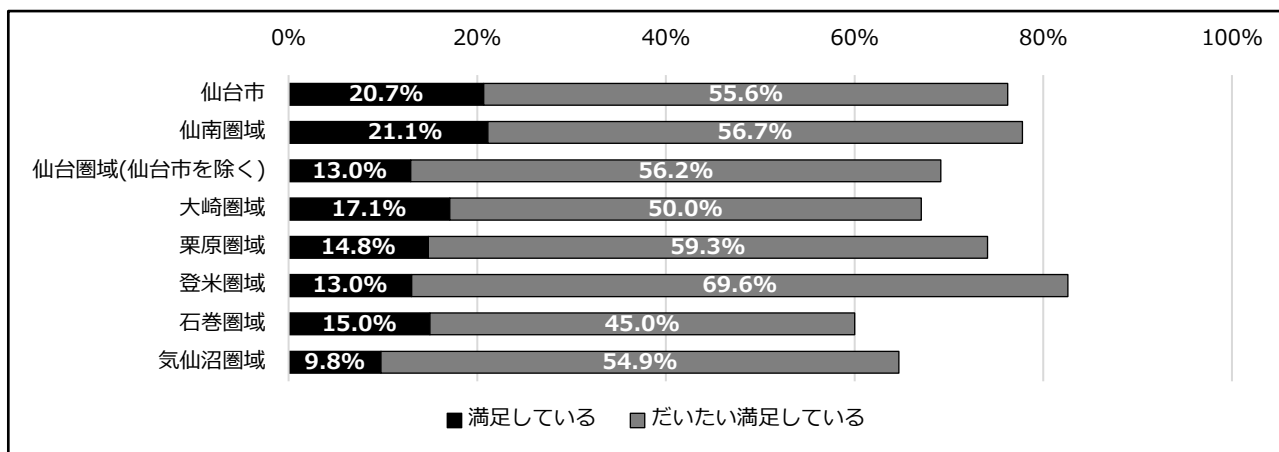
（今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した施設類型別内訳）



（今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した年代別内訳）



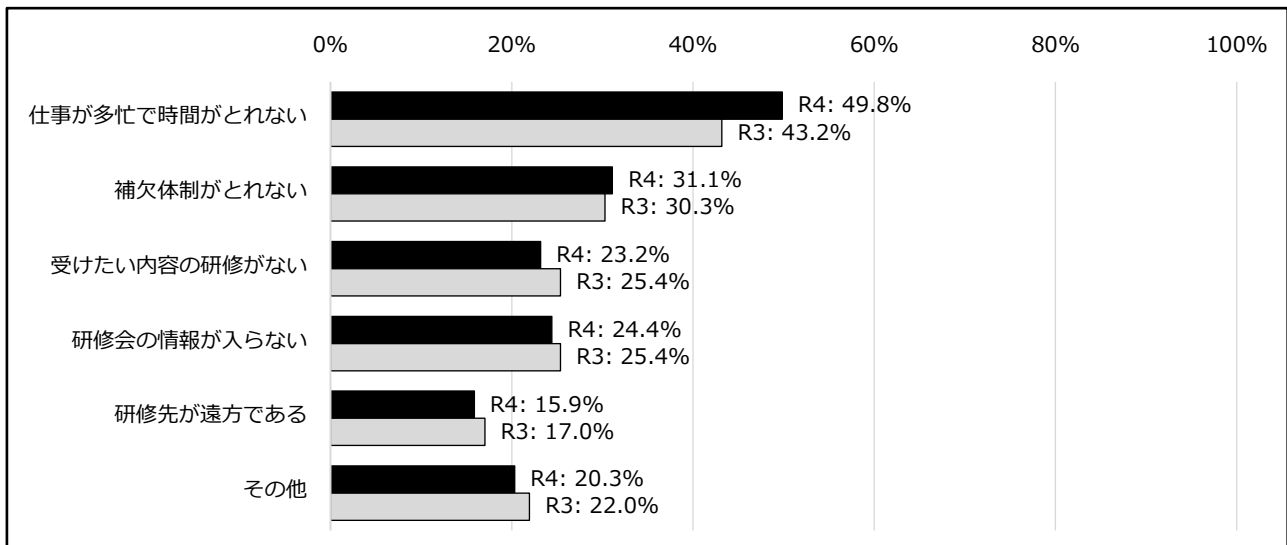
(今年度「満足している」「だいたい満足している」と回答した圏域別内訳)



【概要・考察等】

- 現在の研修状況に「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、昨年度より0.5ポイント増加した。
- 年代別では、「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、20代は79.0%で一番多く、年齢が高くなるにつれて減少しており、60歳以上は62.1%である。
- 圏域別では、「満足している」「だいたい満足している」と回答した割合は、登米圏域が82.6ポイントと最も多く、石巻圏域が60.0ポイントと最も低かった。

4-1-2 「4-1-1」で「あまり満足していない」又は「満足していない」を選択した方は、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



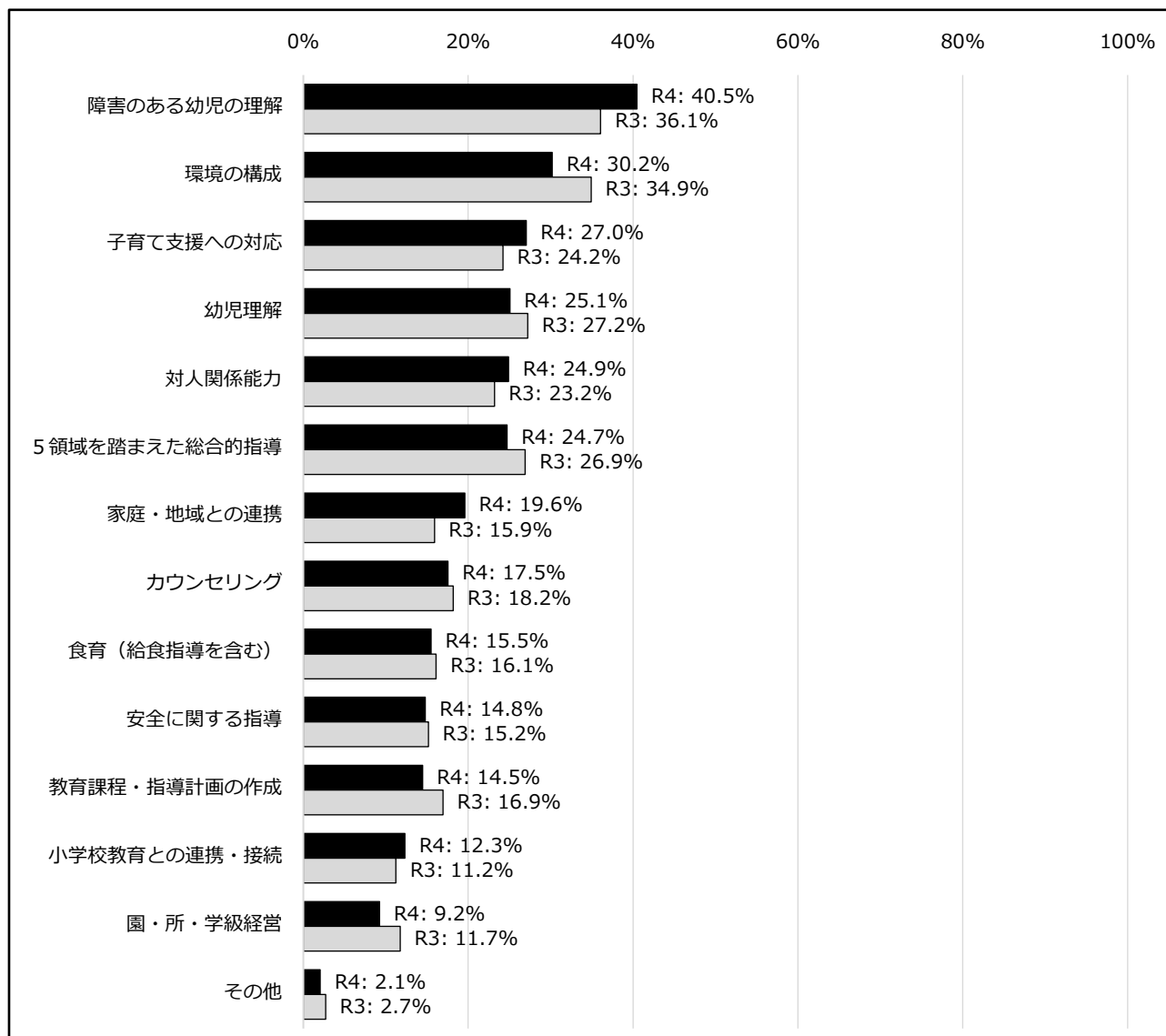
【その他の主な内容】

コロナ感染が気になり、会場での受講ができない。
補欠をお願いしにくい雰囲気がある。

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「仕事が多忙で時間がとれない」を理由として回答した割合が最も多く、昨年度より6.6ポイント増加した。
- 短時間でも効率的に研修を行うことが可能になるように、ICTを活用した研修教材の提供など、研修の機会を確保していく必要がある。
- 自由記述の中で「コロナ禍の影響」に関する記述が多くあることから、感染症対策をしっかりと図りながらの研修の場の提供や、可能な限り研修を開催できるような対策を工夫するなどして、研修の機会を確保していくことが必要である。

4-2 今後、受講したい研修会等の内容についてお答えください。（該当するもの3つ選択）



【その他の主な内容】

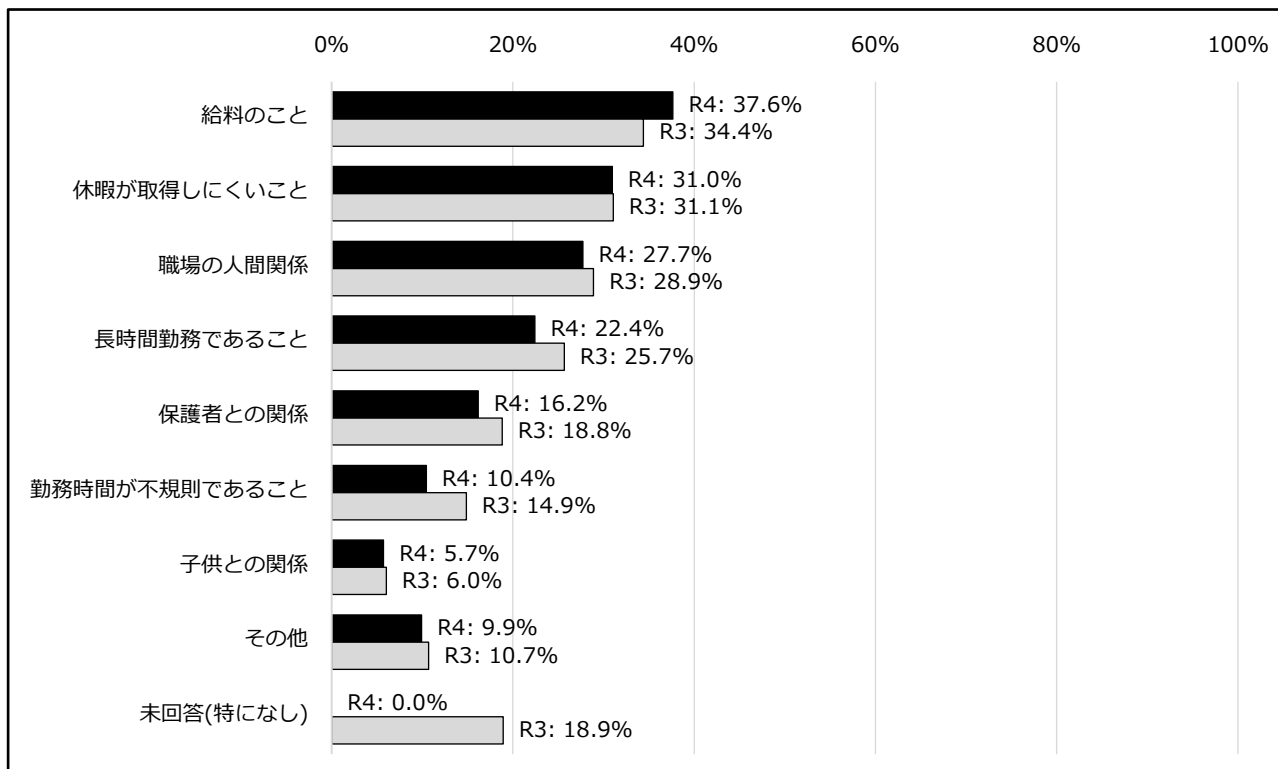
リズム遊びや歌遊び, 人材育成, 保護者対応, 自主性を育てる保育の在り方について

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「障害のある幼児の理解」を受講したい内容と回答した割合が最も多かった。
- 受講したい内容の順位は、概ね昨年度と変わらず、同様の傾向が継続している。

5 職業上の悩みについて（全員回答）

働く上で悩んでいることがありましたら、その理由をお答えください。（該当するもの全て選択）



【その他の主な内容】

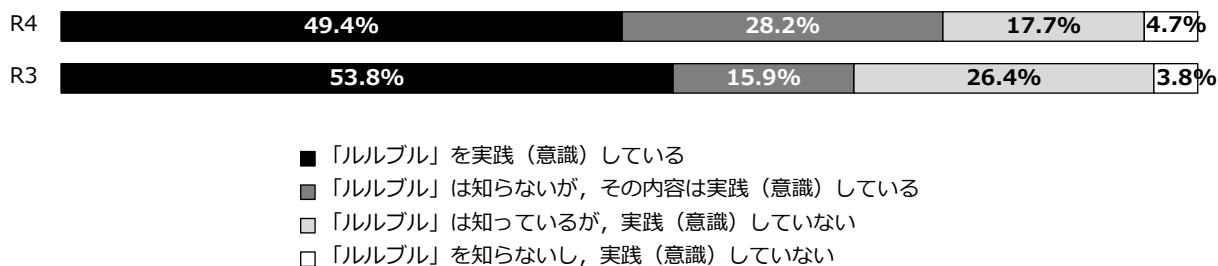
職員不足、職場環境の改善、自身の家庭生活と仕事の調和、園・所の運営

【概要・考察等】

- 昨年度と同様、「給料のこと」を理由として回答した割合が最も高かった。
- 職業上の悩みの理由の順位は、概ね昨年度と変わらない。

6 「ルルブル」について（全員回答）

子供の基本的な生活習慣の確立に向けた「ルルブル」の取組に関して、御自身の教育・保育における取組状況についてお答えください。

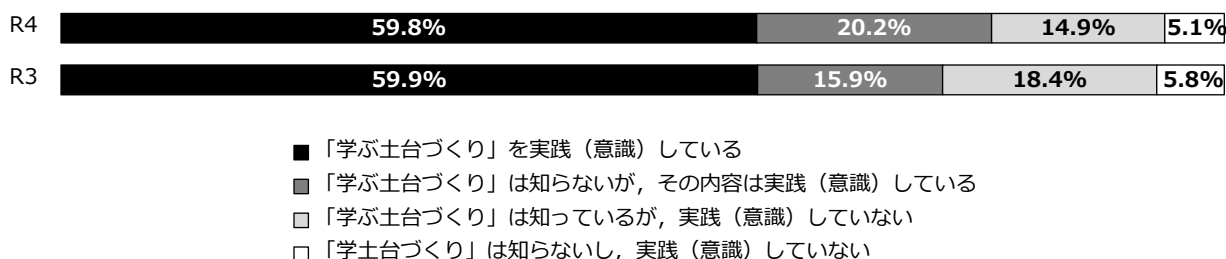


【概要・考察等】

- 「ルルブル」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より7.9ポイント増加した。
- 「知らないが、その内容は実践（意識）している」「知らないし、実践（意識）していない」と回答した割合は、32.9ポイントと、「ルルブルを知らない」と回答した教職員が一定数いることから、更に「ルルブル」の取組の普及啓発を図っていく必要がある。

7 「学ぶ土台づくり」について（全員回答）

幼児教育の充実に向けた「学ぶ土台づくり」の取組に関して、御自身の教育・保育における取組状況についてお答えください。



【概要・考察等】

- 「学ぶ土台づくり」の取組を「実践（意識）している」「知らないが、その内容は実践（意識）している」と回答した割合は、昨年度より4.2ポイント増加した。
- 「知らないが、その内容は実践（意識）している」「知らないし、実践（意識）していない」と回答した割合は、昨年度より3.6ポイント増加したため、引き続き「学ぶ土台づくり」の普及啓発を図っていく必要がある。